

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)^(ホ08)

研究組織 建石徹、朽津信明、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則、秋山純子、芳賀文絵、島田潤、紀芝蓮（以上、保存科学研究センター）、水谷悦子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）ほか

目的 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

成果

第2回博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を実施した(7月4~8日、受講者19人)。

令和3年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。

研修内容は次のとおりである。文化財の科学調査(分析科学研究室)、文化財IPM概論・実践・実習(生物科学研究室)、屋外資料の劣化と保存(修復計画研究室)、保存環境に関する理論と実習(保存環境研究室)、修復材料の種類と特性(修復材料研究室)、多様な文化財の保存と修復(修復技術研究室)、空気質について、博物館の防災(文化財防災センター)、写真の収蔵管理・取り扱い等、民具の保存、紙の保存修復、大量文書の保存処理、近代文化遺産

の保存、文化財修理の実務。

研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、参加者から有益と評価された。



研究室の見学の様子

文化財の収集・保管に関する指導助言^(シ)

担当 江村知子、二神葉子、橘川英規、小野真由美、安永拓世、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一郎（以上、文化財情報資料部）、塩谷純(上席研究員)、小林公治(特任研究員)

目的 これまでに蓄積された文化財に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて、専門的な見地から保存・伝承・活用等に関する助言を行うことにより、文化財保存の質的向上に貢献する。

成果

助言の依頼は国(3件)、地方自治体(11件)、関連機関(20件)、海外(4件)の合計38件で、以下の通りである。

1. 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言
2. 文化庁の非常勤調査員として重要文化財の草堂寺方丈障壁画の現状調査と今後の修理計画に関する協議・助言
3. 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員
4. 国際交流基金・欧米ミュージアム基盤整備支援事業評価委員
5. ふくやま美術館の展覧会「名刀 江雪左文字」展に関

わる展覧会の企画・展示に関する指導・助言

6. 茨木市文化財資料館郷土史教室での講演
7. 美術史学会への『美術史』ウェブ公開にむけての情報提供・助言
- 8~38. 以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言
愛知県美術館、足立区郷土博物館、逸翁美術館、和泉市久保惣記念美術館、茨木市文化財資料館、大阪城天守閣、大村市歴史資料館、神奈川県立歴史博物館、鎌倉市教育委員会、岐阜市歴史博物館、京都府教育委員会、甲賀市教育委員会、角屋もてなしの文化美術館、東京大学総合図書館、徳川美術館、長崎歴史文化博物館、中之島香雪美術館、南蛮文化館、日本二十六聖人記念館、林原美術館、広島県立美術館、フェルケール博物館、文